

## 教育事例⑫

# 繰り返し学べる動画教材で学生の「学び」が定着

～「自分の身を守る」ために必要な知識だからこそいつでも・どこでも・何度でも学べる教材を～

### 何度でも視聴できる動画教材の 高い学習効果に期待

昨年度より、「安全衛生」「自転車交通安全」「枝打ち」3つの動画教材を制作しました。一度講義で聞いただけでは定着しにくい内容も、受講後に動画教材を繰り返し視聴することで、非常に高い学習効果が得られると考えています。

### 学内の様々なシーンで活用

今後は、研究や実験（物理・化学・生物・地学分野）の安全指導をはじめ、ヒヤリハット事故事例を参考にした「危険予知訓練」の動画教材を制作したいと考えています。また、留学生向けに英語のナレーションを入れるなど、大学内の様々なシチュエーションに対応できる「安全マニュアル」の制作を目指します。

### 安全衛生 危険予知

### 共通教育科目での 講義内容を統一化

平成25年度後学期から始まった、新入生対象の共通教育科目「社会力入門」の「安全衛生」で動画教材を活用しました。

1回生約1,900名に対し4名の



「安全衛生」収録時の打合せ

教員で対応するため、講義内容にむらがないようにする目的で制作しました。対面授業でまず動画教材を視聴した後、各担当教員が補足説明をするという形で活用しました。

### 授業および授業時間外で 繰り返し視聴

授業後、再度動画教材を視聴したい学生のため、授業と同じ動画教材を Moodle 上にアップしています。学生は、いつでもどこでも何度でも視聴し確認できるため、自分の身を守るために非常に重要な「安全衛生教育」には、特に効果的な方法だと考えています。

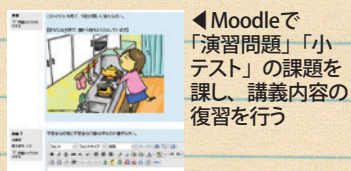
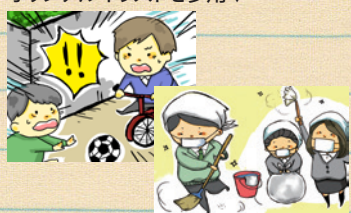
### 「自分の身の守り方」を 新入生に分かりやすく伝える

新入生対象なので、より「分かりやすく」伝えるために、動画中にエピソードを多用し、併せてイラストも盛り込みました。そうすることで、エピソードを、より身近に感じてもらうことに成功しました。

### 受講者の声

受講した学生からは「何度も視聴できるので、印象に残った。」「内容が記憶に残りやすかった。」などの声があり、学びの定着を実感しました。また、「話していることのイメージが付きやすかった。」「視覚的に分かりやすかった。」などの声もあり、イラストやエピソードを使用した狙い通りの効果があったと感じています。

### エピソードに合わせた オリジナルイラストを多用▼



◀ Moodleで「演習問題」「小テスト」の課題を課し、講義内容の復習を行う

事前学習・復習など  
様々なシーンで動画教材を活用



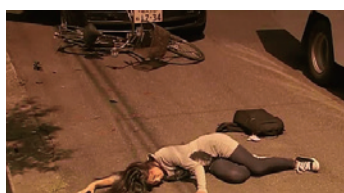
農学部生物資源学科応用生命化学専門教育コース植物化学  
伊藤 和貴 准教授

### 自転車交通安全

### ドラマ仕立ての動画教材で 自転車の危険をより身近に

自転車利用の多い大学生のため、J Aが制作した中高生向けの「自転車交通安全教育 DVD」を、著作権処理を行った上で加工し、ドラマ仕立ての動画教材を制作しました。

大学生向けにするため、さらに学生の事故事例を取り入れ、「自分たちの周りでも事故が起きている」ということを、実感できる内容になるよう工夫しました。



ドラマの事故発生シーン

新入生セミナーで使用する目的で制作しましたが、今後は2・3回生でも年に1度この教材を使った指導を行いたいと考えています。

### 生物資源科学実習 枝打ち

### 危険な「枝打ち」実習の 事前学習にも活用

農学部の学生は全員、「枝打ち」の実習を受けます。今までも、実習前の説明会は実施していましたが、枝打ち経験のない学生がほとんどで、一度説明を聞いただけでは不十分と考えました。

そのため、繰り返し学べる事前学習用に動画教材を制作しました。教員が説明しながら実際に枝打ちを行うシーンと、学生が実際に実習を行うシーンを組み合わせ映像化しました。

事前安全指導として、学生に繰り返し動画を視聴し、しっかりイメージを掴んでもらっています。



学生の枝打ち実習映像

### 安全衛生 危険予知



講義スライドに合わせ、教員がエピソードを交えて「危険予知」について解説します。最後には、実際に演習問題を解き、「不安全な行動をしないための対策」などをじっくり考えます。

### 自転車交通安全



警察官の講義▶

ドラマ仕立ての動画教材の他にも、愛媛大学の教員の解説を用いたオリジナルの課題を盛り込みました。また、実際に警察官による講義を実施し、その際の動画を今後動画教材として活用します。

### 生物資源科学実習 枝打ち



◀ 教員の解説

学生の実習▶

まず教員が枝打ちの方法や注意点を解説します。その後、実際に学生が実習を行います。うまくいかない点なども撮影し、イメージが湧きやすいよう工夫しています。